

雌阿寒岳

1 概況

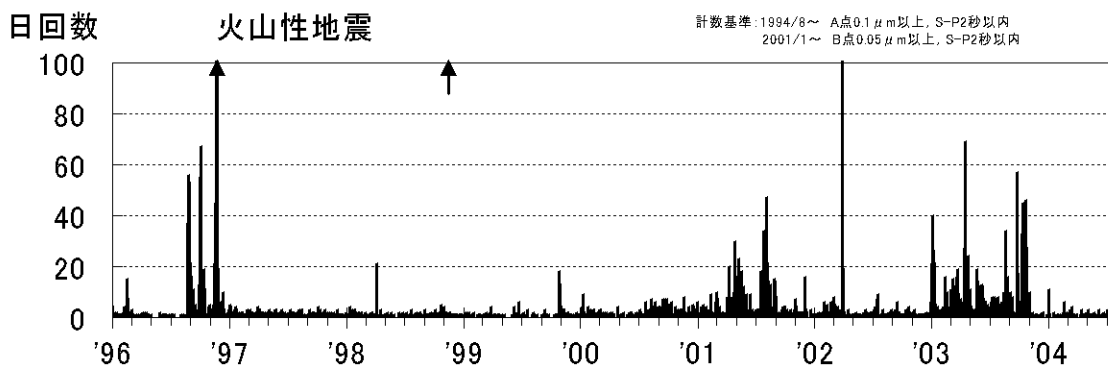
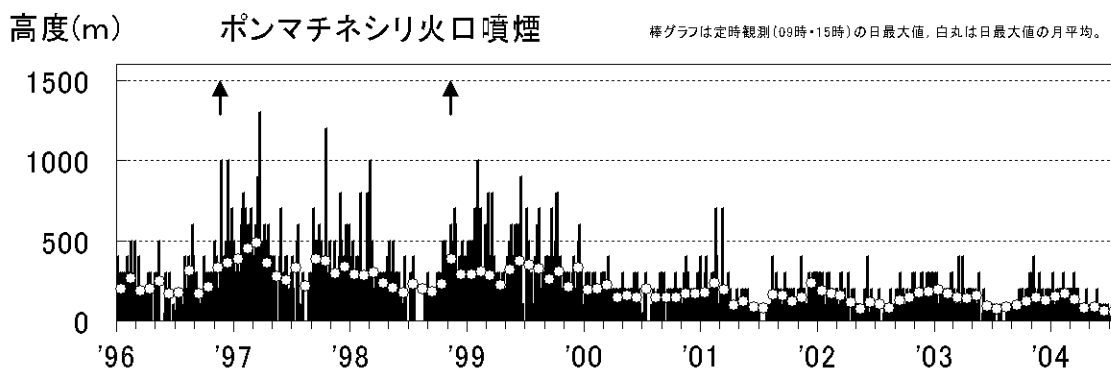
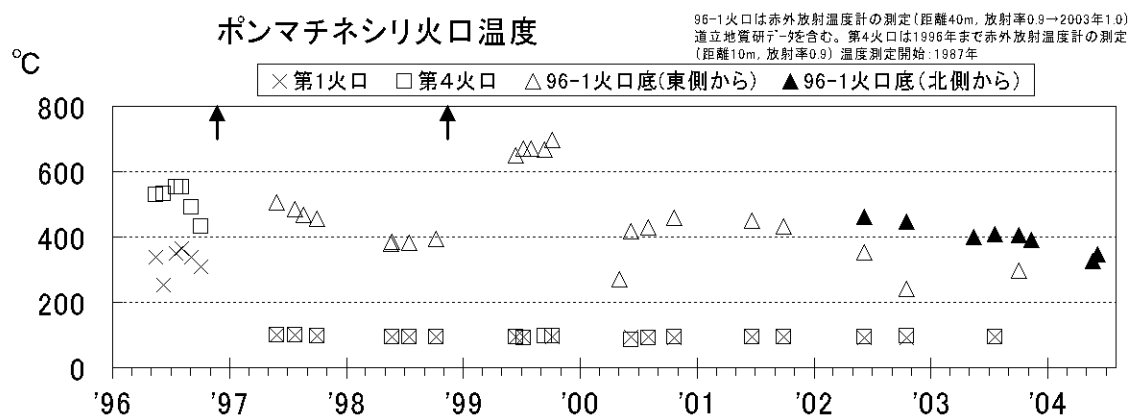
火山活動はやや活発な状態が続いています。

ポンマチネシリ 96-1 火口ではこれまで同様高温の状態が続いていると推定されます。

噴煙はやや少なく、火山性地震も少ない状態が続いています。

2 噴煙の状況

今期間のポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況は前期間と大きく変わらず、噴煙の高さは火口縁上おおむね 100～200m で推移しました。噴煙の高さや噴出の勢いは 2000 年以降やや低下した状態が続いています。



最近の火山活動経過図（1996年1月1日～2004年7月31日） ↑ 印は噴火

3 地震および微動の発生状況

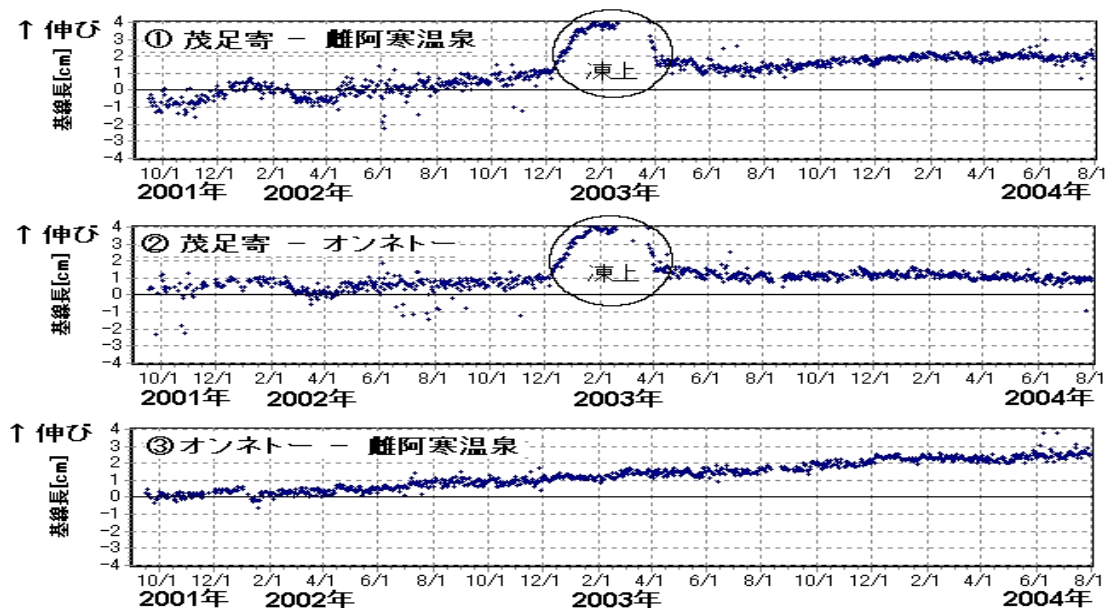
今期間の火山性地震の回数は 1 日あたり 0～5 回で、昨年 11 月以降少ない状態が続いています。火山性微動は昨年 1 月以降観測されていません。

地震・微動の月回数（B 点）

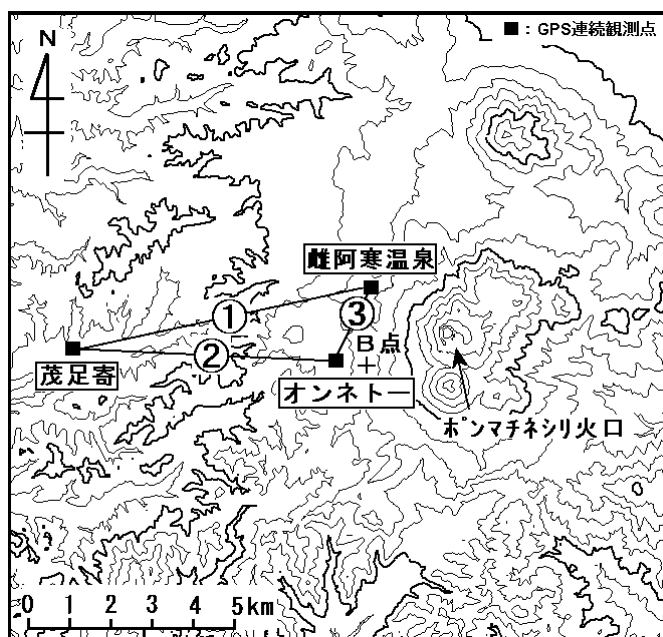
2003～2004 年	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
地震回数	195	156	352	19	12	19	20	17	15	16	17	33
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4 地殻変動の状況

西麓での GPS 連続観測では、やや伸びの傾向を示す変動が認められていますが、火山活動との関連については今後の推移を見て判断する必要があります。

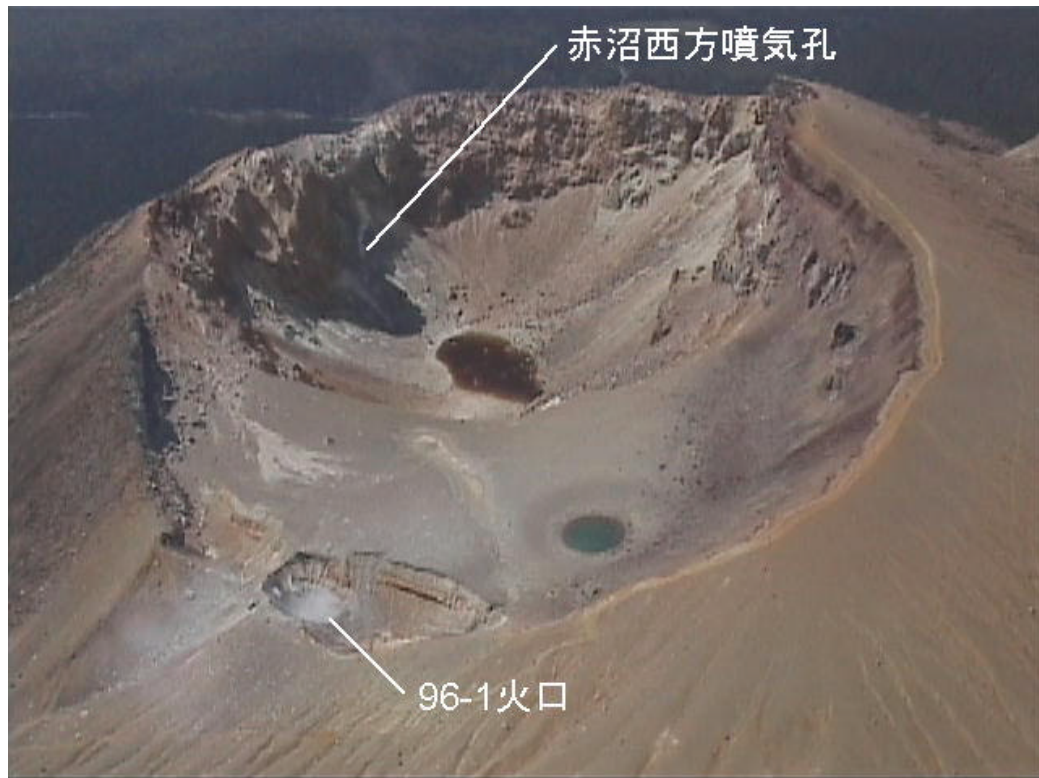


基線長変化（2001 年 9 月 19 日～2004 年 7 月 31 日）



5 上空からの観測結果

7 月 15 日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、ポンマチネシリ 96-1 火口、赤沼西方噴気孔および中マチネシリの噴煙の状況はこれまでと比べて大きな変化はありませんでした。赤外熱映像装置*の観測では、各火口周辺の温度分布に変化は見られませんでした。96-1 火口ではこれまで同様高温の状態が続いていると推定されます。



ポンマチネシリ山頂部（南東上空から撮影）

* 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。